

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立高田小学校

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>「人間性豊かで実践力のある児童の育成」</p> <p>めざす児童像 たくましく(素直で誠実な子) かしこく(自ら考え行動する子) たくましく(心と体を鍛える子)</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>人間力あふれる児童を育成する。 自ら学びに向かう子 気持ちのよいあいさつをする子 最後までやり抜く子 "自然と伝承文化の豊かなふるさと高田"に根ざした教育を展開する。</p>
---	--

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語A算数Aについては、県平均と比べると正答率は同程度である。 国語Bについては、県平均と比べると正答率は低い。 算数Bについては、県平均と比べると正答率はかなり高い。 国語Bでは、二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えることに課題がある。(本校44.4%、岡山県58.6%) 算数Aでは、体積を求める量と測定の問題の正答率が高い。(本校94.4%、岡山県78.2%) 算数Bでは、数量関係から規則性を見だし活用する問題の正答率がかなり高い。(本校83.3%、岡山県 62.8%)</p> <p>県</p> <p>社会の正答率は県平均を上回ったが、国語は県平均と同程度、数学、理科は正答率が県平均を下回った。 国語は、「話すこと・聞くこと」領域は高いが「読むこと」には課題があり、物語の読み取りの正答率が低い。 社会は、「我が国の国土と地域の様子」と「我が国の歴史」が正答率が高い。昨年度と比べて活用力の伸びが大きい。 数学は、図形についての知識・理解の面は、昨年度は課題があったが、改善が見られた。「量と測定」に課題がある。 理科は、観察・実験の技能は高いが、科学的な思考・表現が弱く、活用問題に課題が見られる。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>「ものごとを最後までやり遂げた達成感」や「自分にはよいところが有ると思う自己肯定感」は昨年より上がってきている。また、「友だちの話や意見を最後まで聞く」の項目で肯定的な回答が高い。 「あいさつ」「地域行事への参加」等については、肯定的な回答が県より高い。地域とのつながりが見られる。 「テレビ等の視聴時間」が減り、「一日1時間以上家庭学習をする生徒」が県より高いものの、内容では予習・復習をする児童・生徒の割合が低い。 「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」という項目が県平均より高い。 「新聞やテレビのニュース」等の関心が低く、ニュースは見ると読むが、新聞を読んでいない児童が半数いる。 国語に対する関心・意欲は上昇しているが、「読書は好き」と答えた児童・生徒の割合が低く、図書館の利用も少ない傾向。 平日にゲームをしたり、テレビやビデオを見たりする児童の割合が県より非常に高い。 学校の授業で、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのが難しいと思っている児童が多い。 将来の夢や希望をもっている児童の割合が高く、何のために勉強するのか自分なりに考えている割合も高いが、自分で計画を立てて勉強をしている児童・生徒の割合は低い。 「授業の始めに学習のねらいや目標が示されていた」「授業の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた。」の項目はどちらも、昨年度より肯定的な回答が増えている。 調査問題の書く問題に最後まで解答を書こうと努力した児童の割合が高い。</p>

<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>落ち着いた学習環境づくり(学習規律)に力を入れ、話すことや聞くことの力が育ち、ねばり強く取り組む児童が増えている。毎月行っている児童アンケート「がんばっているよ」カードの振り返り活動で児童自身の自己成長感が高まった。 国語・算数の基礎的な問題の正答率は上がっているが、問題をていねいに読み解く力や活用力に課題が見られる。 理科・社会では、4・5年生での既習内容の知識理解面での定着が課題である。 授業の終わりに振り返りができているが、内容の工夫と、家庭学習や補充学習に関連づけることが課題である。 新聞やニュース等社会への関心が低いの、知的環境を学校と家庭で高めていくことが課題である。 家庭学習の時間が十分でなかったり、予習・復習ができていなかったり、家庭での時間の使い方を家庭での学習や生活習慣作りが課題である。 読書をする児童としない児童の二極化が進んでいるので、具体的な取組をしていく必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>改善につながったものは、継続する。・振り返り学習・家庭学習・音読・視写・日記・単元別到達度テスト 各教科の学習の仕方を身につかせ、自分で学習を進めることができるようにする。 ・物語・説明文の授業で基本的な仕組を意識させた授業の工夫を行い、文章の要旨をとらえ読みとる手段を身につかせる。 ・自分の考えを説明したり書いたりする活動を多く取り入れる。 ・授業改善に取り組み、特に音読の工夫により聴解力の向上を図る。(「高田詩集100選」等) ・算数は、全校で木曜日に20分間、2学年前からの問題にチャレンジし、自主的に学ぶ姿勢を育てると共に定着に向けて、個に応じた指導を全職員で行うとんたんチャレンジを進める。 補充学習を行い、個別指導に取り組む。 ・定着しきれない設問を明確にして定着へ向けた徹底した指導をする。 知的な環境整備を行い、社会のニュース、自然への関心、ことわざや名詩等を話題にしたり掲示したりする等、生活上触れる機会を多くする。 おすすめ200冊や読書リレー、読書登山等に取り組み、読む本の幅を広げたり意欲を持たせたりする。</p>
---	--

<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>毎月の児童アンケートを継続して行い、学習や生活に対する意識付けを行うと共に自信がもてるようにする。...学期毎 全学年、国語の授業研究を行い、読解力や表現力を高める授業作りを推進する。...2学期末まで 授業評価シートの活用(職員)の月毎の視点を絞った指導の振り返りシートで職員の意識の共有化...学期毎 「えがおいっぱい高田っ子カード」の取り組み(家庭での過ごし方や家庭学習)...6月・10月 小中連携の取り組みの継続(チャム・そうじ・あいさつことばづかい・学習規律)...学期毎 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。...12月</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>各教科ともに、「好き」「よくなる」と回答する児童の割合をあげる。(2学期末80%をめざす。) 国語の課題に対応した手立てを適切に取り入れた授業改善ができている。 家庭学習の全員提出をめざす。(2学期末100%をめざす。) 読書登山の取り組みで、読書量や読書時間が1学期より20%増。 高田っ子カード全員提出。家庭学習の時間・読書時間を1学期より10%増。 算数で、とんたんチャレンジに取り組み、計算力をあげる。たしかめテストで90点以上(1月末) 2・3月で定着 算数で、該当学年の単元別到達度テストを全学年実施し基礎・活用力をあげる。(2月末までに80%)</p>
--	---